



11月 おいすかだより

2020年10月30日発行



♪あれ 松虫が鳴いている チンチロ チンチロ
チンチロリン♪ 先月の歌「虫の声」ですが、東京の
リカ先生から、松虫ではなくカマキリの画像が届
きました。黒くて長いしっぽがある特別なカマキリ
かと思いきや、お尻から出ているのはハリガネム
シ！なのだそうです。カマキリのお尻を水でぬらし

たところ、ハリガネムシがでてきたとのこと。

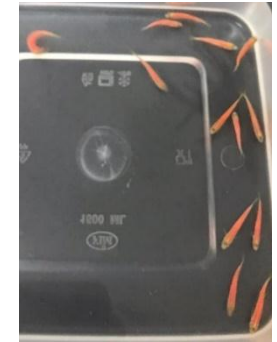
類線系動物のハリガネムシはカマキリやキリギリスなどの腸内に寄生して秋
になると宿主の虫の体内から出てきて水辺に向かい、水中で交尾をして産卵しま
す。林や草地に生息するカマキリの体内にいるハリガネムシが水辺に行くことが
できるのは、ハリガネムシが宿主のカマキリなどの脳を体内で操作し、水辺へと
誘導するからです。頭がいいですね。図鑑やインターネットで調べてみると楽し
いでしょう。

【11月のねらい】

- ・食べ物に関心をもち、苦手な食べ物にも少しだけ挑戦してみる。
(食べ物の色・形・香り・味を楽しむ、食べ物にはさまざまな栄養があること
を知る、好きな食べ物を十分に味わって食べる、調理の手伝いをする等)
- ・手洗い、うがい、鼻をかむこと等、衛生の習慣を心がける。
(丁寧に時間をかけて手を洗う、鼻をかむ、鼻をかんだあとのティッシュを
ゴミ箱に捨てる、ハンカチやティッシュを用意する等)
- ・季節の移り変わりを感じ、味わい楽しむ。
(天気や気温、湿度の変化を感じる、気候に応じて衣服を調節する等)

【11がつ うまれ の おともだち】

2か すずき ☆☆☆ せんせい
30にち た☆ ☆☆ ちゃん



【11がつ おたんじょう かい】

・ 11がつ 28にち (どようび)

日本時間 10じから 10じ 40ぷんです。

(右の画像は幼稚園の仲間に加わった金魚です。幼稚園で待っています)

【理事長先生のつぶやき】園庭で母ヤギがケドンドンの実を食べていました。園
児の大好物の美味しい実、園児が戻ってきたらがっかりするだろうなあと心配し
ていると、木陰から仔ヤギも登場。親子ヤギの姿に内モンゴルでの経験を思い出
しました●オイスカ幼稚園は20年前から植林に取り組み、上海園の富樫元事務
長は現在、内モンゴルとウズベキスタンで緑化活動と研究を推進していますが、
「10年のうち9年は干ばつ」といわれる厳しい環境で遊牧民が暮らす内モンゴ
ルに以前、赴いた時、服を着たヤギに出迎えられて驚きました。草木が育たずヤ
ギが互いの体毛を食べあうための防止策とのこと●ある時、この地を襟裳町の小
学生が訪れました。襟裳岬はかつて砂漠化が進行、けれども漁師たちが独自の植
林方法を創案し急速に回復したのです。緑化には親子孫三代にわたる時間と努
力が必要ですが、孫世代の小学生が砂漠化した内モンゴルに応援に駆けつけまし
た。国土の7割が森林の日本でも砂漠化に直面したことがあったのです●内モン
ゴルの子どもたちと、毎朝3時に起床し浜で昆布拾いをしてから園や学校に通う
襟裳町の小学生は植林とともに汗を流し、緑化の希望を共有しました。残念なが
ら内モンゴルの大人たちは緑化など無理と、ただただ眺めるだけでした。幼児教
育の重要性を痛感します●自然破壊も遠因である、この度のコロナ禍。時間はか
かるでしょうが、子どもたちならば克服できると確信しています。子どもによ
うに柔軟で前向きな思考で難局を乗り越えましょう。

<https://www.shanghai.cn.emb-japan.go.jp/culture/new161124.html>